

新刊 私の○○

単行本

与那原 恵 (ノンフィクションライター)

- ◎①『<日本人>の境界』(小熊英二著、新曜社・5,800円)
- ◎②『十四歳』(井田真木子著、講談社・1,700円)
- ③『情報革命という神話』(J・ヌーマン著、北山節郎訳、柏書房・2,800円)



支配者の反応を検証する。とくに沖繩については琉球処分から本土復帰運動まで、沖繩内部の論争を明らかにした点が興味深い。復帰運動の際に歌われた「沖繩を返せ」の歌詞に傲慢さを感じていたが、その背景に革新ナショナリズムの思想があると知った。

② 渋谷に漂う少女たちの絶望をこれほど丹念に描いたルポはない。ある事象を切り取る絶妙な語り手を得る著者の凄腕が、本書でも存分に発揮されている。

① 近代植民地政策のなかで「日本人」とはどの範囲を指し、その要因は何かを探究した。沖繩、アイヌ、台湾、朝鮮などへの政策と被

③ 印刷、電信、テレビ、インターネット。これらのメディアは世界を変えたのか。メディアが戦争や政治に果たした役割をたどる。自民党失墜の原因は橋龍のテレビ映りにあったかも。